



健康のかけはし

2006年
第2号



副看護部長
田邊寿美子

新採用者を迎え、看護部新体制での18年度が始まりました。18年度診療報酬改定、そして機能評価受審と大きな課題を抱えてのスタートとなりました。診療報酬改定では、看護職配置の表記を総配置表記2対1から実質配置10対1に変更したこと、7対1入院基本料の新設・医療安全対策加算・専任専従加算などが新設されました。これに向けて看護部も少しずつ動き始めています。しかし、病院としてはマイナス3.16%となりそのため少しでもコストもれをなくし、入院稼働率をあげるよう看護部一丸となり努力しています。

私たち看護師は日々看護していく中で何を基本にしているか、看護部の理念を紹介します。

倉敷成人病センター看護部の理念

1. 患者様の免疫力・自然治癒力を最大限に引き出すよう援助し、苦痛や不安の軽減を図る。
2. 患者様の人権を尊重し、いつでも何処でも患者様のそばにいて患者様の声に耳を傾け、意思決定できるよう援助する。
3. 倉敷成人病センターの看護師としての誇りを持ち、品性を高め、心身の健康保持増進に努め、看護師としての責務が果たせるよう自己研鑽し、キャリアアップに努める。
4. 医療チームの一員として、地域・他部門・他職種の人々との信頼関係を保ち、安全性・経済性を基盤として協働する。

これらの理念を基に日々安全安心な看護ができるよう努力しています。そのためにも他部門との連携をもちながら、成人病センターの看護師として誇りを持ち、目標に向かって努力していきたいと思っています。

基本方針

わたしたちは『医学の進歩は人間を幸せにするためのものである』という原点を忘れずに、人間愛と向上心に富み、地域の人々から信頼される医療を提供することを目指す。

理念

1. 地域の人々から信頼される特徴ある病院
2. 明るい職場で最良の医療を提供する病院
3. 常に夢をもって前進する高機能を有する病院
4. 患者様の人権と意思を尊重する病院

小児科の紹介



小児科医師
御牧 信義

集約と分散

意味するところは、読んで字の如く、「集めること、散らすこと」です。この言葉が現在の小児科医療においてどのような意味を持つかを考えてみたいと思います。

全国規模での小児科医不足は昨今、新聞を賑わしており、皆様もご存知のことと思います。その反面、小児科、特に小児科救急医療への期待は高まる一方です。この二律背反ともいえる厳しい現実の狭間に悩む日本小児科学会は小児救急医療に関し、少ない小児科医師を一極集中することにより、限られた医師数で質の高い医療を提供可能な体制を整えようとしています。つまり「集める」わけです。

しかし集めることは小児医療を提供する場が減ることを意味しますから、通院距離が長くなる、待ち時間が長くなるなど、良くない事も起こりえます。特に心配されるのは、これまで多くの小児科医療機関がそれぞれ工夫して打ち出していた独自性が損なわれる可能性があるということです。小児科医療は高度先進医療から形の見えない心の部分まで幅広く対応しなくてはなりません。それらの分野は高度に専門化していますので、限られた小児科医であらゆる小児医療を提供することは難しい時代になってきています。ではどうするか？ これに対する答えは医療を分担あるいは分散し、それぞれの医療機関がそれぞれ独自の医療を提供し、地域としての小児科医療を再構築することではないかと思います。

このように医療を「集約する」事（小児救急医療の集約化）と「分散する」事（多様な医療の提供）を同時に実現することが、それぞれの地域における小児科に与えられた宿題です。それぞれの医療機関が、それぞれの分野で、それぞれ専門性の高い小児医療を提供できるよう最大限の努力をすることが求められているのではないのでしょうか。

これは口で言うほど簡単なことではありませんが、私たち小児科スタッフは、集約と分散の同時達成という新たな目標に向かって、日夜精進していきたいと思っています。





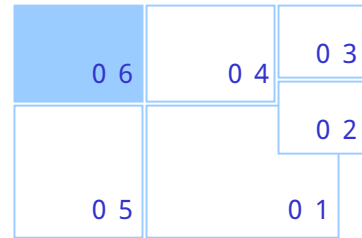
リハビリテーション部の紹介

新たなスタート！

当院リハビリテーション部は、今年3月に南館1階へ移転し総面積約300㎡、施設基準「運動器リハビリテーション」「脳血管疾患等リハビリテーション」を取得しスタッフも増え新たなスタートを切りました。

リハビリテーション室内は、運動療法エリア・物理療法エリア・日常生活動作訓練エリア・小児訓練エリア・リンパ浮腫患者用個室・作業療法個室・言語聴覚療法個室（4部屋）・観察室・防音室（聴力検査室）に分かれています。

スタッフは今年度より理学療法士（PT）7名 作業療法士（OT）4名 言語聴覚士（ST）4名 助手2名 合計17名となりました。



01 運動療法エリア 各種マシンや平行棒等が揃えられています！ 02 リハビリテーション室入口 ここに入るとスタッフの元気な笑顔が！ 03 言語聴覚療法個室前通路 緑のドアの各部屋で個別療法が行われています！ 04 日常生活動作訓練エリア 実際に使用できる設備が整っています！ 05 小児訓練エリア 06 物理療法エリア 低周波治療器やホットパックなど多種多様な装置があります。

現在の主な対象疾患は、整形外科疾患（上肢・下肢・体幹の骨折、変形性関節症、人工関節置換術後、手の外科等）、関節リウマチ・膠原病（強皮症・全身性エリテマトーデス・皮膚筋炎等）、発達障害（脳性麻痺・染色体異常・自閉症・注意欠陥多動障害・学習障害・広汎性発達障害等）など様々な疾患を対象としています。

今後は、乳腺外科及び婦人科術後のリンパ浮腫の方に対するリハビリテーションと生活習慣病の方に対する運動療法を実施できるよう準備している最中です。

このように様々な疾患を持たれた方々がおられますが、それぞれ共通して悩んでいることがあります。それは生活の場面でのちょっとした或いは大きな不自由なのです。そこに直接的にアプローチするのがリハビリテーションであり、対象者の方またはそのご家族に対して“生活にちょっとしたスパイスを加える”ことをお手伝いするのが我々の役割です。それを行うのはリハビリテーション部のスタッフのみではなく、家族を含め対象者を取り巻く全てのスタッフによるチームアプローチで成り立ちます。



Staff

今後も少しでも皆様の身近な存在になれるよう人間性を養い、同時に医療従事者として知識と技術が向上するべく切磋琢磨してまいります。

<リハビリテーション部の基本方針>

「リハビリテーション部では、

Independent Living With Dignity
尊厳ある自立生活

という言葉をもとに、人対人のふれあいを重視し個別での訓練を中心とした治療を展開します。良い治療サービスを提供する為に、人間愛と向上心を忘れず、日々知識と技術の向上を目指します」



KMCトピックス

びょういんのコンビニ!

「タイ内視鏡学会一行が手術見学のためご来院になりました」

タイ内視鏡学会（チャイシリワッタナ会長他19名）の皆様が、去る3月20日より3日間、当院婦人科腹腔鏡手術の見学にお見えになり、安藤医師他、婦人科スタッフと交流を深めました。



チャイシリワッタナ会長からの感謝状を受ける安藤医師



腹腔鏡手術について説明する安藤医師。

熱心に講義を聞かれ半数ずつ実際の手術を見学されました。



控室にて手術中継画面を元に婦人科医師が説明を行いました。



Yショップで購入できる医療品等

平成16年6月開店以来、年中無休でしかも幅広い品ぞろえで、院内のコンビニ的役割を果たしているのが「YSP成人病センター店」です。お菓子や飲み物、おにぎりやサンドイッチといった軽食から、文具、雑誌・書籍、日用雑貨、入院生活に欠かせない生活道具など幅広く扱っております。さらに、今年の1月にオープンした倉敷成人病クリニック内にも新たにもう一店舗出店し、より一層充実したサービスと商品を提供できるようになりました。



他の院内売店と比べて珍しい所は、**食物アレルギー対応食品**を扱っている！点です。牛乳、卵、大豆、米、小麦等を使っていないお菓子や無添加調味料をはじめ、アレルギー米、ひえ、あわなどの穀物までも取り揃えております。



店長オススメ!

今後は、食物アレルギー対応食品に限らず、糖尿食などさまざまな健康食品をより充実させ、他の院内売店とは一味違う売店を目指していこうと考えております。



日本財団より平成17年度の助成を受け真備中央病院に介護支援車(ダイハツ ムーブ)老人保健施設「ライフタウンまび」に介護支援車(スズキ ワゴンR)の2台がそれぞれ69万円の助成金により整備されました。